

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-001
2.研究課題名	ヒトの感情伝搬に関わる匂い物質基盤
3.研究期間	令和5年6月（倫理委員会承認後）～ 令和8年3月31日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 私たちは言語情報のみでなく、多様な感覚器官を動員して、非言語情報も介して、コミュニケーションを行っている。主な非言語情報としては、表情や声のトーン、視線などが挙げられる。私たちはこれらの情報をもとに、時には言葉の裏にある、相手の情動や意図を推定する。このように非言語的コミュニケーションは視覚と聴覚が担っているとみなされてきた。 しかしながら、近年、嗅覚情報も関与している可能性が示唆されている。特定の感情を喚起させた人の腋汗を採取し、その匂いを他の人に呈示するとその感情状態に応じた生理反応が起こることが明らかとなっている。例えば、恐怖や嫌悪の匂いを呈示時に、表情筋の筋電図を計測したところ、それぞれの感情に特徴的な表情筋の波形が検出された。他者の感情について、その表情や声、姿勢などを無意識のうちに真似して、同じ感情状態になることを「感情伝染」と呼ばれるが、視覚や嗅覚に加えて、嗅覚を介しても感情伝染が起こると考えられる。この他にも、過去の研究では、特定の感情の匂いを呈示させると顔画像の表情の評定に影響する、また活動の変化が起こることも明らかとなっている。このように感情を喚起させた人の匂いには、それぞれ異なる成分が含まれ、その匂いが他者に感情を伝搬していることが考えられるが、匂い成分についてはこれまであまり調べられていない。 本実験の目的は、喚起された感情によって、ヒトの皮膚から出てくる匂いの成分の調べることである。動画を用いて、特定の感情を喚起させ、その状態で皮膚ガスと呼ばれるヒトの皮膚から放出される匂い成分を固相マイクロ抽出法 (solid-phase microextraction: SPME) により採取し、ガスクロマトグラフィーによる分析を行う。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 20-30代の日本人男性延べ40名延べ40名を予定し、実施担当者による口頭での告知及び実験内容を記載した広告の掲示により募集を行う。実験者及び対象者には実験日前日及び当日に検温し、合わせて体調にも異常がないことを確認する。 椅子に座った状態で、恐怖・喜びなどの感情を喚起させる動画を30分間視聴してもらう。その際、参加者の右腕に匂い採取用の袋を被せ、その袋にSPMEファイバーホルダーを刺し、腕から放出される匂いを採取する。休憩を入れつつ、この採取を感情条件ごとに繰り返す。また、感情状態についての質問紙に回答してもらう。さらに、脈波の計測、そして唾液中アミラーゼの採取を行う。

	実験前日と当日には匂いの強い食事や、アルコール、タバコ、化粧品などの使用を控えるようお願いします。
	問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」倫理審査委員会 （022-795-6103） 文学研究科心理学研究室（022-795-6048）

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）